

県立高校改革（I期）指定事業 実施報告書 （平成30年度）

学 校 名	松陽 高等学校 (全)定・通	校 長 名	伊藤 美紀
指定事業	授業力向上推進重点校		
研究主題	「松陽スタンダード」に基づき、生徒が主体的に学習に取り組む授業の実践及び検証を行うことで、生徒の思考力・判断力・表現力等の一層の向上を図る。		
3年間の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が自ら「思考・判断・表現」できる能力を身に付けている。 生徒主体の授業の更なる充実、グループワークの質の更なる向上を図り、生徒の「思考力・判断力・表現力等」を育成する。 2 生徒が大学入学センター試験に替わる新テストに対応できる力を身に付けている。 基礎力をしっかり身に付ける「習得のための主体的な学習活動」、習得した基礎力を「活用するための主体的な追求活動」、真に考えるための「探求型の発展学習」について研究を重ね、新テストに対応できる力を育成する。 3 授業力向上をふまえた本校のカリキュラムデザインを完成する。 生徒の探究活動等を組込んだ学習活動を推進できる教育課程の作成に向けた協議、研究を実施し、3年間の取組の成果として完成させる。 		
本年度の研究内容	<p>(1)目標</p> <p>本校では3年間で生徒に身に付けてもらいたい学力水準を「松陽スタンダード」と位置付けており、平成25年度から3年間その内容の具体化、明確化を目指して研究を重ねてきた。その取組を基に、授業力向上推進事業では、生徒の「思考力・判断力・表現力等」の育成を図る日常的な授業研究をとおして、本校の現状と課題をふまえた組織的な授業改善の推進と共通理解の形成を図る取組を続けてきた。本推進事業3年目では、「授業力向上」推進の取組の総まとめとして、研究の経緯・内容・資料等を編纂することにより、本校独自の「松陽スタンダード」の運用・発展に繋げていきたい。また、生徒が主体的・対話的に深く学ぶための学習活動を適切に測る評価方法について、研究・開発を進めるとともに、本校の授業力向上に関わる取組について発信していく。</p> <p>(2)実施内容（具体的に）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○4月に、授業力向上推進に係るプロジェクトチームを発足し、研究計画を立案した。 ○4月9日に、学校支援クラウドサービス（Classi）についての生徒対象説明会を実施した。 ○6月13日に、国立教育政策研究所・教育課程研究指定校事業の研究内容に関する校内協議会①を行った。 ○7月9日～11日 学校評価に関する生徒の意識調査を実施した。 ○8月23日（横浜南西地域）第1回研究協議会準備会・研究協議会を横浜平沼高校で実施した。 ○9月20日～21日に、北海道釧路東高等学校を訪問し研究先進校の取組を視察した。 ○9月25日に、横浜国立大学の有元典文教授を招き「『問い』から授業デザインを考えるプロジェクト」というテーマで「授業力向上推進校内研修会」を実施した。 ○9月27日の職員会議で、授業力向上推進に係る研究の全体像を確認した。また、平成 		

30年度「第一回生徒による授業評価」の集計結果を確認し、その後全教科で分析を行った。

○9月27日～10月31日に複数回「教科主体のグループによる事前検討会」を設定し、平成30年度「第一回生徒による授業評価」の結果分析と研究授業に向けた授業づくりを行った。

○10月に、学校評価に関する生徒の意識調査についての集計・分析・結果報告を行った。

○11月1日～11月16日に、授業見学期間を設定し、教職員が教科を越えて相互に授業を見学し合った。

○11月16日に、「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の実践～『授業デザイン』『問い』を考える」というテーマで公開研究授業及び、生徒を含めた研究協議会を実施した。

○11月20日に、国立教育政策研究所・教育課程研究指定校事業に関わる公開研究授業及び、生徒を含めた研究協議会を実施した。

○12月26日に、(横浜南西地域)研究成果発表会・学習成果発表会を横浜平沼高校で開催した。

○1月17日に、国立教育政策研究所・教育課程研究指定校事業の研究内容に関する校内協議会②を行った。

○2月に、平成30年度「第二回生徒による授業評価」の集計結果を確認し、その後教科で分析を行った。

○年間を通して、自らの授業を客観的に観察・評価することで、授業改善に繋げることを目的に「日常的な授業のビデオ撮影」を実施した。

(3) 検証方法と検証結果

①「生徒による授業評価」【評価3（ほぼ当てはまる）・評価4（当てはまる）の比率】

○「D：生徒主体の授業の工夫」

評価3・4と回答した生徒の比率が、第一回授業評価に比べて第二回授業評価では10教科について上昇した。しかし、保健が69%、情報が68%に留まった。

○「G：学習への取組」

評価3・4と回答した生徒の比率が、第一回授業評価に比べて第二回授業評価では10教科について上昇した。しかし、保健が78%、情報が79%に留まった。

○「H：態度・姿勢」

評価3・4と回答した生徒の比率が、第一回授業評価、第二回授業評価ともに、すべての教科が8割以上であり高い評価を保っている。

	<p>②研究授業用「生徒による授業評価」 「今日の授業の『問い』により、自分の考えを深めることができた」という設問に対し、全体平均で 90%以上の生徒たちが自分の考えを深めることができた実感した。</p> <p>③学習成果発表会・参加者アンケート（生徒） 「学習成果発表会はいかがでしたか。」という設問に対し、「大変よかった」、「よかった」と回答した生徒の比率が 100%であった。 「学習成果発表会は今後の学習に役立つと思いませんか。」という設問に対し、「大変よかった」、「よかった」と回答した生徒の比率が 100%であった。</p> <p>④学習成果発表会・研究成果発表会参加者アンケート（教員） 学習成果発表会の内容は今後の指導の参考になりましたか。」という設問に対し、「参考になった」「おおむね参考になった」と回答した教員の比率が 100%であった。 「研究成果発表会の内容は今後の指導の参考になりましたか。」という設問に対し、「参考になった」「おおむね参考になった」と回答した教員の比率が 100%であった。</p>
<p>研究の まとめ</p>	<p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「授業力向上推進校内研修会」を実施したことにより、授業デザインという観点から、授業に「問い」を組み込むねらい、またそのための授業・単元づくりについて、職員の共通理解が深まった。 ○「生徒による授業評価」において、「生徒主体の授業の工夫」「学習への取組」「態度・姿勢」が第一回授業評価に比べて第二回授業評価高まった。 ○「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業の実践～『授業デザイン』『問い』を考える」をテーマに実践した研究授業において、全体平均で 90%以上の生徒たちが「自分の考えを深めることができた」と実感した。 ○（横浜南西地域）学習成果発表会の実施により、地域の生徒同士の交流が図られ、発表に対する意識が高まった。 ○（横浜南西地域）研究成果発表会の実施により、各学校の取組の成果と課題が発信され、お互いに共有することができた。 <p>(2) 課題（今後の方向性を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業デザインの全体像を捉え直した上で、「問い」の構造・類型を整理し、その目的・位置づけを明確にする。 ○生徒の主体的で深い学びを評価する観点・方法について、一層の研究・開発を進める。
<p>その他 特記事項</p>	<p>本校の「授業力向上推進重点校」としての取組を研究紀要としてまとめた。</p>

